

# 名古屋SF読書会 17 三体Ⅲ 劉慈欣 2021・10・3

名古屋SF読書会URL <http://www.ne.jp/asahi/science/fiction/dokusyokai/>

【あらすじ（ネタバレあり）】

## 第一部 雲天明（ユン・ティエンミン）と程心（チェン・シン）の物語

危機紀元4年、中国で安楽死法が成立し、肺がんで入院中の天明は死を決意。そこへ大学時代の同級生が訪ねて来て、天明の作った雑草水にヒントを得た飲料水で莫大な利益を得たため、300万元を天明にくれると言う。そのお金で、天明は大学時代の同級生、程心に星（286.5光年先のDX3906）をプレゼントする。程心は惑星防衛理事会戦略情報局（PIA）で働いており、三体艦隊に核パルス推進の探査機を送る計画（階梯計画）を提案。しかし、実験の結果、探査機に積めるのは500グラムのみ。安楽死直前の天明を訪ねた程心は、計画を説明し、天明に志願を求め。天明は引き受け、天明の脳を搭載した探査機は三体艦隊に向けて出発した。程心は計画を見届けるため、人工冬眠に入る。

## 第二部 抑止紀元の終わり

抑止紀元12年、地球連合艦隊の生き残りである〈青銅時代〉が地球へ戻ると、乗員は全員逮捕される。罪状は殺人罪と反人類罪。〈量子〉を攻撃し、遺体をすべて食料にしたことが罪に問われる。乗員の一人シュナイダーは〈藍色空間〉に「戻ってくるな」というメッセージを命がけて送信する。三体世界と人類は協力し、終末決戦後に地球で作られ重力波送信装置を備えた航宙艦〈万有引力〉と水滴2機で〈藍色空間〉を追う。

抑止紀元61年、冬眠から目覚めた程心は、DX3906に発見された惑星二つを売却したお金で会社を設立。惑星の発見者、艾（アイ）AAが入社する。程心は、羅輯（ルオ・ジー）の次の執剣者を狙うトマス・ウェイドに競争相手とみなされ、撃たれる。回復後、女性型ロボットとして現れた智子（着物姿）に招待され、茶の湯を楽しむ。悩んだ末に程心は執剣者に立候補し、選ばれる。程心が羅輯と交代するや否や、三体世界は6機の水滴を送り込み、重力波送信器23基をすべて破壊。抑止紀元は終了した。38日後、再び地球に向かっている三体艦隊415隻が観測される。今度は光速推進をしているため、1年後には到着する。智子（迷彩服に日本刀）の指示のもと、人類はオーストリアと火星のみに住むことを許される。3か月で10億人がオーストリアに移住し、大混乱となる。42億人が移住した後、電力が絶たれ、互いを食う地獄と化す。一方、〈万有引力〉では、流星塵が船の中に衝突するなど不思議な事件が続出。執剣者の交代とともに水滴が仕掛けてきた攻撃を避けることもでき、ついには重力波送信機で三体世界の座標を送信することに成功。三体艦隊は地球から方向転換し、智子は人類帰還を指示する。

〈万有引力〉と〈藍色空間〉に起きた不思議な現象は、〈四次元のかげら〉と接触したことによるものだった。三次元宇宙を一枚の紙とすると、紙の上のシャボン玉が四次元空間となる。この接点＝歪曲ポイントから四次元空間に入ることができるのだ。関一帆（グアン・イーファン）ら3名は宇宙艇で四次元空間を探索し、リングの中の生命体と接触。生命体は「わたしは死に、墓となった」「ここは潮だまりのようなもの」「海は干上がってしまった」「海を干上がらせた魚は別の空間に移動した」と言い、すぐにここを離れろと言う。【←次元攻撃を受けた四次元生物】

二隻は〈四次元のかげら〉を離れ、リングは三次元に出てきて崩壊する。二百名の乗員は帰還船に乗り込み地球へ向けて出発、二隻は別々の方向に向けて旅立つ。

## 第三部 天明との再会、三つのおとぎ話

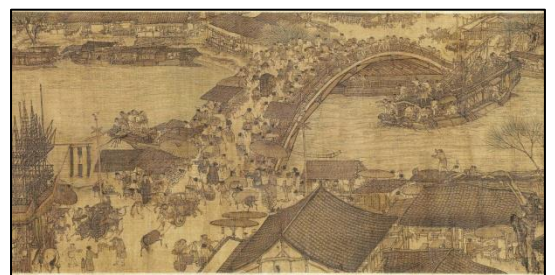
送信紀元3年、光速に近い物質が恒星を破壊し、三体世界は消滅した。紀元7年、その光が地球に届く。程心と羅輯は智子（着物姿）に招待され、茶の湯を楽しむ。「三体星系は太陽系より危険に見える」「理由は永遠に教えられない」「地球人は脱出するしかない」と言う智子。「地球は安全だという送信は可能か」と問う羅輯に、智子は「はい」と答える。地球では宗教色が強まり、三体人は神、程心は聖母マリアとして崇められる。死を決意した程心だったが、智子に呼ばれ、茶の湯へ。そこで天明が程心に会いたがっていると告げられる。



早川書房  
2021年5月 表紙：富安健一郎



2010年 中国版



清明上河図 12世紀

智子の中継により、ラグランジュ・ポイントの宇宙艇にとどまったまま、球面に映る天明の姿を程心は見ると、(天明はおそらく三体第一艦隊に捕獲され、クローン体に大脳を移植されている。)天明は、三体世界にわからないように、伝えたいことのメタファーとして、三つのおとぎ話を語る。その後、智子は太陽系から撤退する。おとぎ話は以下の通り。

「王宮の新しい絵師」……物語のない王国で、残忍な氷砂王子が針孔(はりあな)という絵師に絵を描かせて、王や王妃、大臣を次々と消していく。彼が肖像画を完成すると、本人は絵の中へ吸い込まれ消えてしまうのだ。王位継承者の妹、露姫も狙われるが、身を守るための傘を針孔の師匠から譲り受け、助かる。竜の結石を付けた傘を誰かが回すことによって、針孔の力が無効化される。露姫は行方不明の長兄、深水王子を探しに墓島へ向かう。

「饜齋の海」……露姫と近衛隊長(長帆)、乳母は海岸にたどり着くが、海には凶暴な饜齋魚がいて出発できない。

「深水王子」……ホーアルシンゲンモスケン産の石鱈を使った露姫の洗顔水が海に流れ出すと、饜齋魚は大人しくなる。3人は舟に乗り、石鱈の泡を船尾に広げて進む。墓島には大きな深水王子の姿が見えていたが、近づくにつれて小さくなる。3人は深水王子を連れて王国へ戻る。深水王子は氷砂王子を倒して、露姫が女王となることを宣言。しかし、露姫と長帆は、帆船に乗って大海原への航海に出る。物語のある場所を目指して――。

程心とAAは、泡風呂で進む折り紙の舟を見て、おとぎ話の舟は曲率推進のメタファーだと気づく。傘は蒸気機関の遠心調速機、どこからも一定に見える深水王子は光速のメタファーである。ホーアルシンゲンモスケンは、ノルウェーのロフォーテン諸島にあるヘールゼッゲン山とモスケン島を示す。西には大渦巻(マイルストロム)があり、舟はここから脱出できない。これらは光速をコントロールして太陽系の光速を第三宇宙速度以下にすれば、全宇宙に安全通知を送信することができるということを意味している。太陽系を低光速ブラックホール(暗黒領域)に変えるアイディアは「暗黒領域計画」と呼ばれる。太陽が光粒で破壊されたときに木星などの影に隠れて生き延びようとする「掩体計画」、曲率推進を開発する「光速宇宙船プロジェクト」とともに、三つの計画を人類は進めていく。

送信紀元8年、光粒が発進されたという誤報により人々がスペースポートに殺到、大勢が死亡する。程心はウェイドと再会し、星環グループをすべて彼に譲ることにする。程心とAAは冬眠に入る。

#### 第四部 掩体計画の推進、ウェイドの最期

掩体紀元11年、程心は木星の裏側の宇宙都市アジアIで目覚める。曹彬(ツァオ・ビン)に案内されていくつかの宇宙都市を回る。太陽系連邦からの独立を宣言し、連邦政府と対立しているウェイドを説得するため、彼女は目覚めさせられた。ウェイドと会い、曲率ドライブ開発の成果を見せられる(3ミリの髪の毛を2センチ移動)。程心は武装解除を命じ、ウェイドは逮捕され、処刑される。程心はAAを起こして地球各地を旅した後、冬眠に入る。

#### 第五部 歌い手の暗黒森林攻撃、光速船による脱出

掩体紀元67年、〈歌い手〉が太陽系に気づき、双対箔を投げる。攻撃を感知した曹彬は程心とAAを起こす。海王星付近に一枚の紙切れが飛来し、接触した宇宙船〈啓示〉は空間とともに二次元化される。光速でしか脱出できない三次元空間の二次元化こそが、光粒と異なる暗黒森林攻撃の本命であり、天明が物語で伝えようとしたことであった。程心とAAは〈星環〉に乗って冥王星へ向かい、地球文明博物館の所蔵品を単体で宇宙空間に並べてほしいと依頼される。冥王星に着いた二人は羅輯と再会し、美術品を船に積み込む。羅輯から〈星環〉は光速航行できると知らされ、驚く二人。光速航行は暗黒領域を作り出すことができる。もしウェイドを止めずに開発を続けていけば、人類は助かったかもしれない。しかし、時はもはや遅く、太陽系はすべて二次元化した。〈星環〉は天明と程心の星へ向けて光速航行に入る。

#### 第六部 宇宙の終焉

銀河紀元409年、地球から286光年先のDX3906に〈星環〉が到着。そこには〈万有引力〉乗員の関一帆が待っていた。〈万有引力〉は〈藍色空間〉とともに植民惑星である世界I~IVを開拓し(世界IIIは暗黒領域化)、五隻の光速宇宙船が宇宙の果てを目指して出発していた。一帆は、攻撃者は物理法則を武器として使い、自分たちを低次元で生き延びるようにしてから次元攻撃を開始するという推測を語る。もともと宇宙は十次元であったが、次元攻撃によって三次元まで落ちてきた。ゼロ次元まで落としてまた十次元に戻ろうとする存在、帰零者(ゼロ・ホーマー)がいると一帆は語る。天明がプラネット・ブルーに到着したが、テス・ラインが乱れ、一帆と程心は〈ハンター〉に乗ったまま、低光速の世界に囚われてしまう。16日後に光速を離脱するが、その間に1890万年が過ぎ去る。天明とAAは亡くなり、岩にメッセージを刻んでいた。「私達は幸福に生きた」と。長方形のドアを見つけ、中に入る二人。そこには智子がおり、この小宇宙(宇宙#647)は、ビッグクランチをやり過ぎて、新たに生まれる宇宙を体験してもらうために天明が作ったのだと説明する。程心はここで三体世界の言語を学び、『時の外の世界』を書く。ある日、宇宙の総量が減っており、このままだとクランチが起きない、質量を宇宙に返して記憶だけを新宇宙へ送れ、という回帰運動声明が届く。二人はこれに賛同。すべての情報を保存したドリフトボトルと一つのエコスフィアを残して、小宇宙を出ていく――。



## 『三体Ⅲ』名言集

「安楽死法はあなたのために作られたのよ」程心

「われわれは前進する！ 前へ！ もっと前へ！」トマス・ウェイド

「石鱈が一個ほしいの」艾AA

「種を送ってくれてありがとう」雲天明

「宇宙は大きい。でも、生命はもっと大きい。縁があれば、この先きっとまた会えるでしょう」智子

「子どもよ、世の中はもっとよくなるよ」フレス

「石に字を彫る」羅輯



星月夜 ゴッホ